

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18520613  
 研究課題名（和文）20世紀前半のカナダ西岸のサケ缶詰産業における日系漁民と他民族との比較研究  
 研究課題名（英文）A Comparative Study on the Japanese-Canadian Fishermen and Other Ethnic Groups in the Salmon Canning Industry on the West Coast of Canada in the First Half of the 20th Century  
 研究代表者  
 河原典史（KAWAHARA NORIFUMI）  
 立命館大学・文学部・准教授  
 研究者番号：60278489

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、20世紀前半のカナダ西岸におけるサケ缶詰産業について、他民族と比較検討から新たな日系漁民史を構築すること目的とする。これまで看過されてきた英字資料群を駆使すると、経済的に低位なマイノリティーであった日系漁民が、やがてカナダ漁業界においてネイティブ・インディアン、中国系に代わって看過できない存在となる過程が明らかになった。また、出身地や生業歴などによって、日系漁民のなかでも漁撈技術の差異が認められることなどが実証された。

## 研究成果の概要（英文）：

The aim of this study is to establish the history of Japanese Canadian fishermen in the salmon canning industry on the west coast of Canada in the first half of the 20th century by comparing them with fishermen from other ethnic groups. Through a close analysis of various English documents that had been overlooked until recently, it has become clear that the Japanese Canadian fishermen, who were economically weak and belonged to a racial minority, came to contribute to the development of the Canadian fishing industry, replacing the First Nations and Chinese Canadian fishermen. At the same time, it has been recognized that depending on the hometown and the occupational history of the Japanese Canadian fishermen, their fishing skills varied among them.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	3,400,000	660,000	4,060,000

研究分野：人文地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：カナダ・移民・サケ缶詰・日系漁民・他民族

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀末期にカナダへ移住し、当地で漁

業に従事した日本人（日系人）は、カナダ

日系漁民と称される。当初、彼らのほとんどはカナダ西岸のブリティッシュ・コロンビア州（以下、BC州）のフレーザー川河口のステーブストンにおいてキャナリー（サケ缶詰工場）に従属し、刺網漁業によるサケ漁に就いた。やがて、クイーン・シャーロット諸島での捕鯨業や、1920年代になるとバンクーバー島東岸での塩ニシン製造業や、その西岸でのトロリング漁業による漁場の発見と移住など、日系漁民の拡散的二次移住が生じた。とくに、カナダ最北部のスキーナ・ナース川河口への季節的移動やその後の定住は、20世紀前半のカナダ漁業界、なかでもサケ缶詰製造業において日系漁民が労働力として極めて重要であった史実を示している。しかしながら、これらの地域的展開は日本語資料と日系人からのインタビュー調査に依存していた先行研究では取り上げられなかったのである。

## 2. 研究の目的

日系漁民の活動は、20世紀前半におけるカナダ西岸の漁業、ならびに水産加工業界では決して等閑視できない。イギリス系カナダ人が経営するサケ缶詰製造業は、原料となるサケを漁獲する優秀な漁民と、それを加工するキャナリーでの多くの従業員が必要であった。この総合的製造業は、まさにサケ缶詰産業と呼べるものであった。そして、ネイティブ・インディアンや中国系、やがてフィリピン系など、さまざまな民族との共同、あるいは反発のなかで日系漁民は活躍していたのである。しかし、これらの他民族との協業、あるいは分業体制をふまえて当時のカナダ漁業界を捉え、そこで日系漁民の活動を検討することは、資料的制約という安易な理由のもと、地理学だけでなく隣接諸科学においても看過されてきたのである。

そこで本研究では、20世紀前半のカナダ

西岸におけるサケ缶詰産業について、他民族と比較検討することから、新たな日系漁民史を構築すること目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究では、カナダ日系漁民を最も多く輩出した和歌山県出身を、日系漁民の代表的事例とする。『加奈陀発展大鑑 付録(1922)』・『在加奈陀邦人人名録(1926)』・『加奈陀在留邦人名簿(1941)』や、後述するBC *Directory*など日本・カナダ双方の人名録の併用によって、彼らのカナダでの居住地・職業、ならびに日本の大字レベルでの出身地や家族構成を明らかにする。

BC州政府関係機関によって毎年発行されるBC *Directory*は、集落毎に居住者氏名と職業について都市部では街路順・農漁村部ではアルファベット順に記載された人名録である。この資料には、*Census of CANADA*では確認が困難な集落単位の人口や、前掲の日本語の人名録では明記されていない非常設店舗の経営者や職工などの職業も明記されている極めて有益な資料である。

(2) 極めて重要な資料となるのが Fire Insurance Map と呼ばれる大縮尺地図である。これは 1858 年にカナダ・トロントで不動産鑑定士によって作成が開始された地図で、西岸の開発によって 1885 年にバンクーバーやビクトリアなどでも作成が開始され、1910 年までにおよそ 1,300 枚の地図が完成した。約 1,500 分の 1 の縮尺からなるこの地図には、1 棟ごとに地番とともに建物が明記されている。そのため、前述の BC *Director* と併用することによって、居住者の分布パターンを看取することが可能である。

このような日系漁民の輩出・受容に関する基礎的な作業をふまえ、彼らのカナダ西岸部での活動について、就業構造をはじめとするサケ缶詰産業そのものだけでなく、居住地の分

化なども含めた他民族との関係について、歴史地理学的なアプローチを試みる。

(3)キャナリーについては、約 500 分の 1 の大縮尺で Fire Insurance Map が作成されている。そこには、" Japanese Apartment ", " Chinese Apartment ", や " Indian Hut " など、労働者である非イギリス系の集住地区も明記されている。初期の地図には、" Jap " などの差別的な表現もあり、建物の更新とともに新たに作成されたり、そのまま貼紙がなされたりする場合も散見されるため、キャナリーの各施設の変遷について分析ができる。また、キャナリーの創業年・規模・施設のほかに民族別の従業員数も概観されている。にもかかわらず、BC Directory 同様、この Fire Insurance Map も先行研究では全く利用されてこなかったのである。最後に、各キャナリーで作成されていた帳簿類を活用する。この資料は、従業員ごとに毎日の漁獲高や購入漁具・日用品までも記録されている。この資料の詳細な分析からは、他民族との比較において日系漁民の特徴が初めて説明される。

#### 4 . 研究成果

(1)1910 年代後半、スティーブストンからユクルーレットを中心とするバンクーバー島西岸に移住する者は後を絶たなかった。一時には、100 人以上の者がここへ渡ったが、カナダ政府は漁業ライセンス（漁業権）の制限を設けたのである。すなわち、ユクルーレットでは 50、その北方のトフィーノでは 30、パークレー海峡を挟んだバムフィールドでは 10 に制限された。最も条件のよかったユクルーレットには和歌山県三尾出身者が集まり、やや条件の悪いトフィーノやバムフィ

ールドなどには他の出身者が移り住んだ。

1941 年のカナダ・センサスを見ると、BC 州で最も人口の多い民族はイングランド系イギリス人で、およそ 40% を占める。バンクーバー島だけをみても、イングランド系の比率はおよそ 50% を占める。そして、日本人は BC 州で 3%、バンクーバー島では 2% にしかすぎない。しかし、トフィーノでは、246 名のうち最も多いのが 73 名（約 30%）からなる日本人であった。

ケーブル基地があったバムフィールドには、それに関係する技師が最も多かった。また、日本人による漁場の発見によって、白人漁業者も 1929 年の 29 名から 1941 年になると 47 名に増加した。ただし、トフィーノと異なり、バムフィールドでは日本人漁業者の移住が、必ずしも大きな影響を与えたようではなかった。同地では、日本人漁業者の土地所有の許可が地籍資料から確認できる。それは、決して差別的な境遇から居住地が限定されたのではなく、漁業者として最適な奥まった入江などに居住地を選択したにすぎなかった。この資料からは、日本人漁業者が徐々に土地を購入していった過程や、それに対して好意的だったのはラトビア系をはじめ、イギリス系以外の移住者であったことなどが推測される。

(2)*Plans of Salmon Canneries in British Columbia together with Inspection Reports on Each* (BC 州サケ缶詰工場図集成) は、1923 年にカナダ西岸で調査された 72 ヶ所の缶詰工場（キャナリー）の火災保険地図とその解説からなる。1880 年代には、わずか 3 ヶ所のキャナリーが開設されたにすぎないが、90 年代以降になると、4・5 年ごとに大量に発生するサケの遡上を鑑みて激増する。この要因として、サケ缶詰産業は軍需と密接するため、世界的な大戦の勃発をめぐる社会・経済的な

背景が指摘される。カナダには、経営者であるイギリス系のもと、先住民であるインディアンだけでなく、多くの中国人・日本人移民も缶詰製造やその材料となるサケ類の漁獲に従事していた。日本人は全体の63.8%にあたる44ヶ所のカナダで雇用されていたが、彼らだけを雇用するカナダはなく、ほとんどではインディアンや中国人とともに従事していた。

フレージャー川北流沿岸のバンクーヴァー・カナダでは、缶詰工場の北側にインディアン・中国人、東側には日本人居住区があった。インディアンの居住施設名はIndian Hut(小屋)、中国人はChinese Bunk(寝台舎)であるのに対し、日本人のそれはJapanese Cabin(簡易住居)と表記されていた。日本人居住区には、Net House(網小屋)やShed(小屋)のほか、漁船や運搬船の新造・修理を担うBoat Builder(造船所)が確認できる。多くのカナダには、日本人を中心とする船大工が雇用されていたのである。さらに、Billiard(ビリヤード場)、やノース・アーム国民学校も設置されていた。

(3)バンクーバー市文書館(Vancouver City Archives)には、水産缶詰会社が缶詰工場ごとに調査・作成したReturns(報告書)が所蔵されている。それによれば、BC州南部にあるフィニクス・カナダには一定数の白人が従事するが、工場での缶詰め作業を中国人、漁船での漁獲を日本人が補完的労働力として担っている。それに対し、BC州最北部のアランダール・カナダでは、一部の白人が工場での重要な業種に就き、原住民のインディアンが主要な労働力となるものの、中国人と日本人が同様の補完的労働力になっている。この相違は、BC州最大の都市・バンクーバーに近接するフィニクス・カナダが、

アジア系移民を比較的容易に取り込んでいることを示している。ほぼ同数の従事者数にも関わらず、その製造量が3倍も異なる点についても、市場の存在とその近接性に要因が求められよう。

アランダール・カナダについては、北太平洋漁業史博物館(North Pacific Historic Fishing Village)に所蔵されたDebit(個人別帳簿)から漁業者ごとの魚種別漁獲量が判明する。主要な魚種はサカイ種で、その最盛期は7月から8月であり、ほぼ1カ月後にはピンク種の漁獲が多くなる。ただし、それらの漁獲高には個人差がみとめられる。たとえば、和歌山県日高郡比井崎出身の清水直七が745尾のサカイ種を漁獲しているのに対し、鳥取県出身の西村熊太郎は、その半分にも満たない。彼らのピンク種の漁獲数はほぼ同数であるが、カナダでの買取が最も高価な魚種はサカイ種であるため、両者の収入には大きな差が生じている。

(4)カナダ日本人漁業史において、サケ缶詰産業に対してほとんど看過されてきた塩ニシン製造業について考察すると、当時のカナダ水産界においてニシン(鮭・鯡)は重要視されず、一時的とはいえ、塩ニシン製造業は日本人漁業者の独占的な産業となった。塩ニシンは、日本さらに朝鮮や香港などに送られた。しかし、1910年頃からカナダ政府は彼らの漁業ライセンスの削減を開始した。そして1912年にはバンクーバー島周辺の第三漁区における魚肥製造業が禁止された。1923年には日本人漁業者に対する漁業ライセンスは、サケだけでなくニシン漁業でも半減された。1925年になるとカナダ政府は、1928年までに塩ニシン製造業における日本人をすべて解雇するという通達を発表した。1926年には白人とインディアンのみにニシン漁業のライセンスが交付され、法律上では日本人は雇

用者とならざるをえなかった。

イギリス連邦諸国を中心とする太平洋沿岸地域へのサケ缶詰とは異なり、ニシンはカリブ海沿岸地域へ燻製物として輸出されていた。それ以外にも、ピクルスへの加工が多いことにも注意しなければならない。アジア方面への塩ニシンとは別物のこのニシン加工品は、第一次世界大戦の勃発によって、主たる生産・消費地であったイギリス、オランダやノルウェーなどからカナダへの輸入が途絶えたため、BC州でも起こった。そこで、経験豊富なスコットランド系を雇用し、この加工品を製造する日本人漁業者も現れた。その販路はアメリカのニューヨークやシカゴが中心で、ユダヤ系がおもな購買者であった。また、西インド諸島、特にジャマイカへの輸出も顕著であった。

第二次世界大戦以前、カナダ漁業界で等閑視されてきたニシンを漁獲し、それを主要な輸出品までに成長する機会を惹起させた日本人漁業者の活動は、サケ缶詰産業と同様に、太平洋をめぐる食生活にも大きく関与したのである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

河原典史「資料調査 火災保険地図の歴史地理学的活用」立命館言語文化研究 18-4、査読無、145-147、2007

河原典史「第2次世界大戦前のカナダにおける日本人の就業構造」地理月報 501、査読無、1-4、2007

河原典史「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみるサケ缶詰産業と日本人漁業者」立命館大学言語文化研究、査読無、19-4、246-250、2008

河原典史「Returns(報告書)と Debits(個

人別帳簿)にみるサケ缶詰産業と日本人漁業者」立命館言語文化研究 20-4、査読無、81-86、2009

河原典史「太平洋をめぐるニシンと日本人 第2次大戦以前におけるカナダ西岸の日本人と塩ニシン製造業」立命館大学言語文化研究 21-4、査読無、21-38、2010

[学会発表](計4件)

河原典史「錯綜するカナダ日本人移民のネットワーク 漁業、教育、そして娯楽」京都民俗学会・第203回談話会、2007年4月24日、京都市・ウイングス京都

河原典史「Fire Insurance Map(火災保険地図)の歴史地理学的活用 20世紀初頭のカナダにおけるサケ缶詰産業へのアプローチ」地域漁業学会・第49回大会、2007年10月27日、宮崎市・宮崎公立大学

河原典史「『BC州サケ缶詰工場地図集成』にみる20世紀初頭サケ缶詰産業と日本人 火災保険地図の予察から」第51回(平成20年度)歴史地理学会、2008年5月18日、仙台市・宮城大学

河原典史「太平洋をめぐるニシンと日本人 - 第二次大戦以前におけるカナダ西岸の日本人と塩ニシン製造業 -」国際シンポジウム「環太平洋地域における日本人の国際移動」2009年10月10日、京都市・立命館大学

[図書](計1件)

米山 裕・河原典史(共編)『日系人の経験の国際移動 在外日本人・移民の近現代史』人文書院、2007、276ページ

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

河原 典史(KAWAHARA NORIFUMI)  
立命館大学・文学部・准教授  
研究者番号:60278489